

IV 調査結果の概観

IV 調査結果の概観

(1) 定住性

ここでは、定住意向（問2）と生活環境の満足度（問4）をクロス集計し、定住意向・転出意向を持つ区民の満足・不満足的项目を明らかにしていく。

1. 問2の選択肢を下記に置き換えて集計する。

「ずっと住み続けたい」、「当分は住み続けたい」：定住意向のある人

「できれば大田区外へ移りたい」、「大田区外へ移りたい」：転出意向のある人

上記と問4をクロス集計し、生活環境への評価点を算出する。

(2) 生活環境の満足度

ここでは、生活環境の満足度（問4）を取りあげて、区民の回答結果の項目間で何らかの影響や共通性があるかなどの特徴を明らかにしていく。

1. 生活環境評価（＜全体としての「暮らしやすさ」＞）と生活環境個別評価の15項目との間にどのような関係があるかを偏相関係数の算出により分析する。
2. 生活環境個別評価の項目群は、大きく分類するとどのような共通の要素から成り立っているのかを把握する。
3. 「2」の分析により、どのような項目が生活環境評価（＜全体としての「暮らしやすさ」＞）の形成にどの程度影響しているのか、また改善点となる項目は何かなどを分析する。

(1) 定住性

問2の定住意向と問4の生活環境の個別評価から、定住意向・転出意向を持つ区民の満足・不満足の項目を明らかにしていく。

ここでは、問2の選択肢を下記に置き換えて集計する。

「ずっと住みたい」、「当分は住みたい」：定住意向のある人

「できれば大田区外へ移りたい」、「大田区外へ移りたい」：転出意向のある人

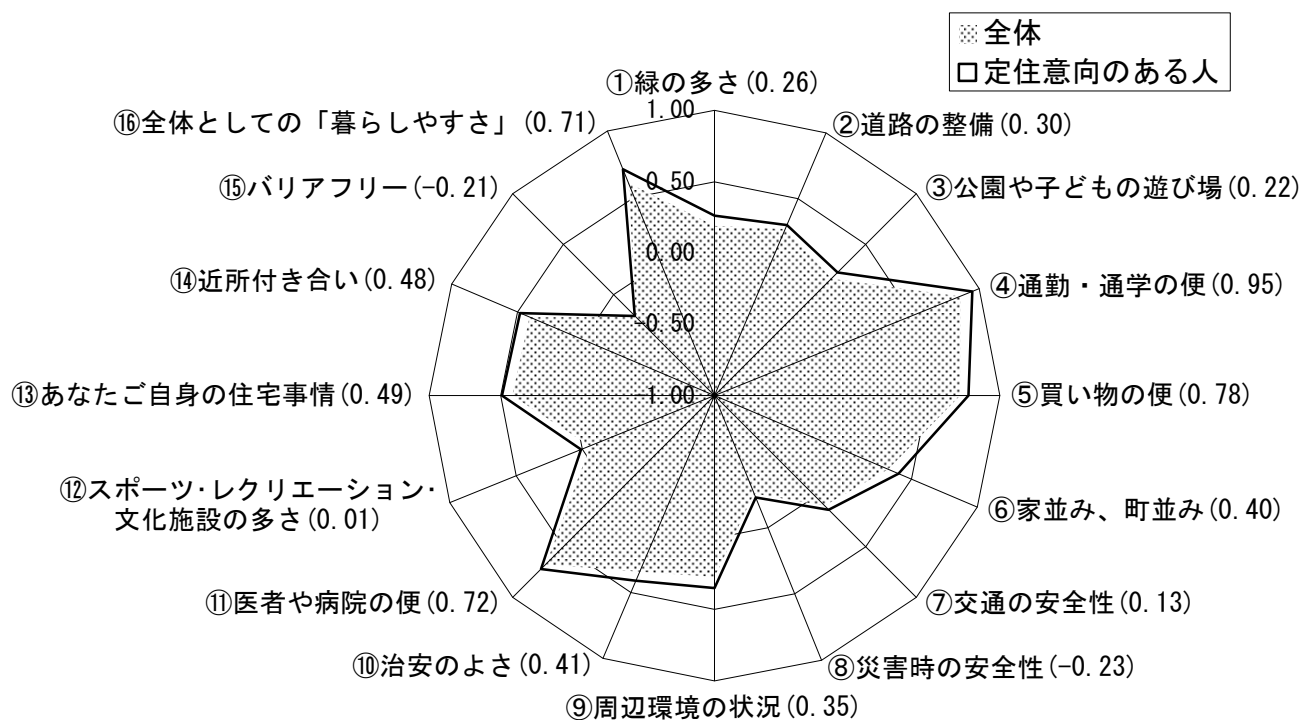
また、47 ページで求めたと同様に、16項目にわたる生活環境評価の比較をやすくするため、それぞれの回答を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。

$$\text{評価点} = \frac{\text{(再掲)} \quad \text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

この計算によると、評価点は-1.00 から 1.00 の間に分布し、1.00 に近いほど評価が高く、-1.00 に近いほど評価が低いことになる。

【定住意向のある人】

問2：「ずっと住みたい」、「当分は住みたい」と回答した人（n=970）

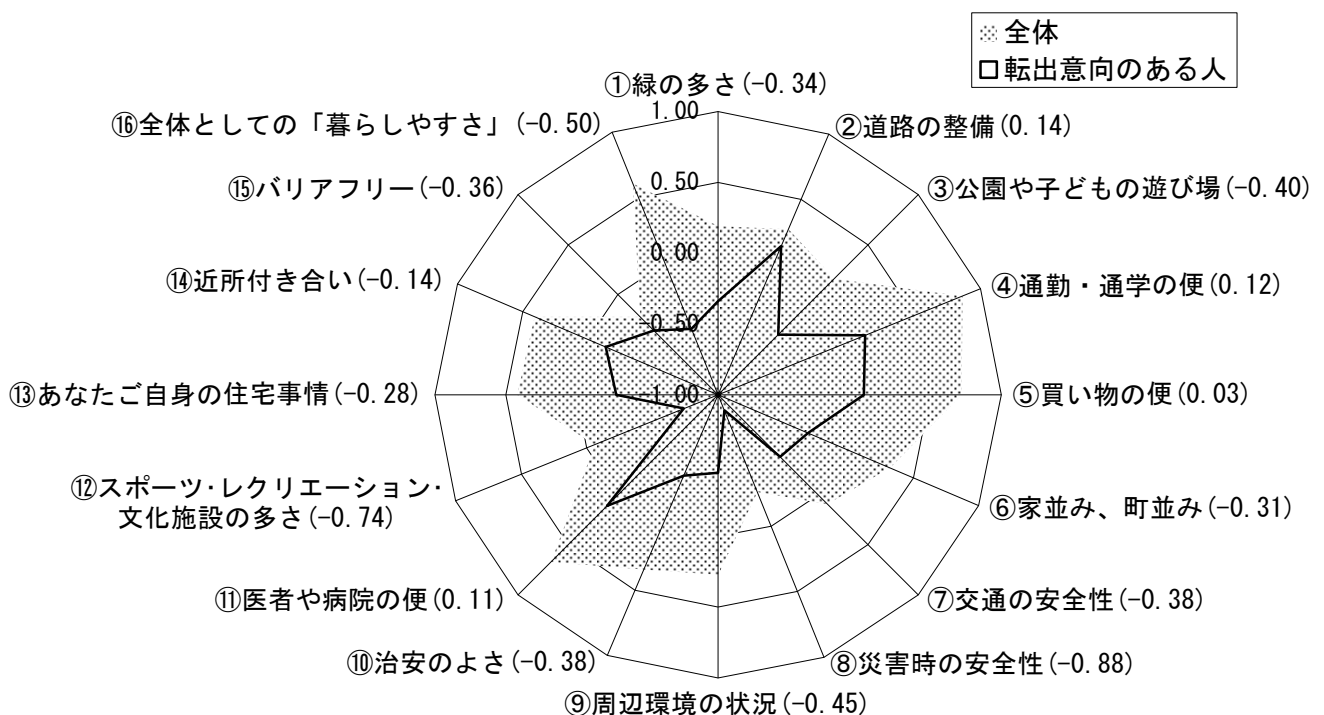


全ての項目で全体を上回っており、特にく全体としての「暮らしやすさ」 > (0.71) が 0.10 ポイント、「通勤・通学の便」(0.95) が 0.09 ポイント上回っており、評価が高くなっている。

一方、全体より評価は高いものの、“定住意向のある人”の中で評価の低い項目は、「災害時の安全性」(-0.23)、「バリアフリー」(-0.21)、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」(0.01)の順となっている。

【転出意向のある人】

問2：「できれば大田区外へ移りたい」、「大田区外へ移りたい」と回答した人（n=58）



全ての項目で全体を下回っており、特にく全体としての「暮らしやすさ」 > (-0.50) が 1.11 ポイント、「通勤・通学の便」(0.12) が 0.74 ポイント、「周辺環境の状況」(-0.45)と「治安のよさ」(-0.38) がともに 0.72 ポイント下回っており、評価が低くなっている。

一方、全体より評価は低いものの、“転出意向のある人”の中で評価の高い項目は、「道路の整備」(0.14)、「通勤・通学の便」(0.12)、「医者や病院の便」(0.11)の順となっている。

【評価点一覧】

問4 生活環境の評価	全体 評価点	定住意向のある人 評価点	転出意向のある人 評価点
①緑の多さ	0.19	0.26	-0.34
②道路の整備	0.27	0.30	0.14
③公園や子どもの遊び場	0.16	0.22	-0.40
④通勤・通学の便	0.86	0.95	0.12
⑤買い物の便	0.72	0.78	0.03
⑥家並み、町並み	0.32	0.40	-0.31
⑦交通の安全性	0.09	0.13	-0.38
⑧災害時の安全性	-0.26	-0.23	-0.88
⑨周辺環境の状況	0.27	0.35	-0.45
⑩治安のよさ	0.34	0.41	-0.38
⑪医者や病院の便	0.67	0.72	0.11
⑫スポーツ・レクリエーション・ 文化施設の多さ	-0.06	0.01	-0.74
⑬あなたご自身の住宅事情	0.42	0.49	-0.28
⑭近所付き合い	0.41	0.48	-0.14
⑮バリアフリー	-0.22	-0.21	-0.36
⑯全体としての「暮らしやすさ」	0.61	0.71	-0.50

「道路の整備」、「通勤・通学の便」、「買い物の便」、「医者や病院の便」は定住意向の有無にかかわらずプラスの評価となっており、今後もこの水準を維持していきたい点と考えられる。一方、「災害時の安全性」、「バリアフリー」は定住意向の有無にかかわらずマイナスの評価となっており、改善が必要な点と考えられる。

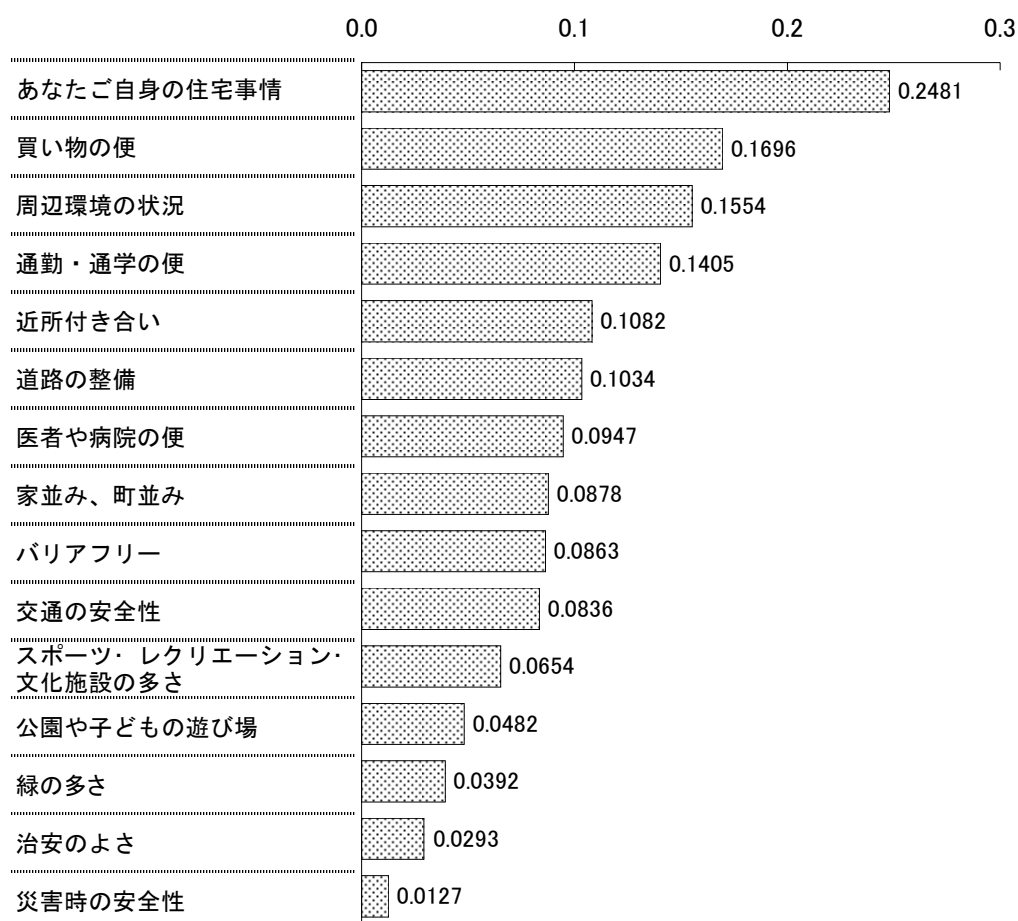
(2) 生活環境の満足度

生活環境の個別評価と〈全体としての「暮らしやすさ」〉の関係

問4の生活環境の満足度から、生活環境の個別評価と〈全体としての「暮らしやすさ」〉との相関関係についてみるために偏相関係数を算出した。偏相関係数とは、2つの項目（ここでは生活環境の個別評価それぞれと〈全体としての「暮らしやすさ」〉）の純粋な相関係数を表すものであり、その関係の大きさは絶対値で示される。

これで見ると、〈全体としての「暮らしやすさ」〉の評価との相関は、「あなたご自身の住宅事情」が最も高くなっている。次いで「買い物の便」、「周辺環境の状況」、「通勤・通学の便」、「近所付き合い」、「道路の整備」、「医者や病院の便」などの順になっている。

この傾向をみると、〈全体としての「暮らしやすさ」〉の評価とのつながりが強いのは、「あなたご自身の住宅事情」、「買い物の便」、「周辺環境の状況」といった日常生活を送る上で、自身に近い環境の影響が強いと考えられる。



下図は縦軸に問4の評価点、横軸に偏相関係数を取り、15項目の指標をプロットしたものである。

Aグループにある「通勤・通学の便」、「買い物の便」、「医者や病院の便」といった利便性に関する項目は、偏相関係数は低いものの評価点が高く、＜全体としての「暮らしやすさ」＞への評価改善に対する寄与度は低いと考えられる。しかしながら、今後も同水準を維持する努力が必要な点と考えられる。

Bグループは、＜全体としての「暮らしやすさ」＞への評価を高める今後の改善点となるグループと言える。

BグループのB1は偏相関係数は高いものの、評価点が低い項目である。しかし、「あなたご自身の住宅事情」という項目の特徴上、外部要因による改善は容易ではない。

BグループのB2に属する項目は、比較的偏相関係数が高い項目から低い項目が含まれる。また共通して評価点が低い項目群であり、その点ではB1グループと類似した項目群である。ただし、B1グループと違い、「家並み、町並み」、「治安のよさ」、「周辺環境の状況」、「道路の整備」など外部からのアプローチで改善可能な項目であり、＜全体としての「暮らしやすさ」＞への評価を高めるには、B2グループに属する項目が今後の課題と考えられる。

また、Cグループは偏相関係数は低い、評価点がマイナスであり、改善が必要な点と考えられる。

